



令和3年10月27日

報道機関 各位

<タイトル>

鴨川市史あゆみシリーズの発刊について

<リード文（またはサブタイトル）>

『増訂 主基のあゆみ』を発刊

<本文>

市では、このほど、鴨川市史あゆみシリーズ最後の冊子・12冊目となる『増訂 主基のあゆみ』（A5判・244ページ）を刊行しました。

この本は、平成12年に刊行した旧版『主基のあゆみ』（A5判・84ページ）に、これまでの各地区のあゆみに合わせて内容を整え、新しく刊行したものです。この間、400年前の検地帳をはじめ、多数の貴重な文書類が発見され、これらから判明した新しい内容が加えられています。

古代から昭和30年の長狭町誕生までの主基地区について、沿革をはじめ、寺院・神社の由緒、教育や産業、生活の様子、学校の沿革など、地区の歴史を分かりやすくまとめ、気軽に読んでいただける読み物となっています。

11月1日から、鴨川市郷土資料館・市役所1階総合窓口・江見出張所・吉尾出張所・生涯学習課（天津小湊支所2階）の市内各所で、1冊700円で頒布します。

問い合わせ

鴨川市生涯学習課 文化振興室 担当：高橋

TEL：04-7093-3800 FAX：04-7093-1101

増訂 主基のあゆみ

鶴川市教育委員会

主基齋田

齋田の選定 明治四年（一八七二）十一月、明治の大嘗祭は天皇即位後初めて行われる新嘗祭で、その年の新穀を、一世一度の大礼である。大嘗祭に用いられる齋田は、古くは畿内から見て、悠紀と主基の齋田から献上された。悠紀・主基の齋田は、悠紀齋田は近江国、主基齋田は丹波国、齋田は西国から選ばれていたが、宇多天皇以降は、悠紀齋田は丹波国、主基齋田は近江国、その国の中で都を定めて幕末に至った。悠紀齋田が甲斐国巨摩郡上石田村（現甲府市）、主基齋田が安房国長狭郡に下定（冷泉天皇のときのみ播磨国）され、現甲府市にあり、大嘗祭の清水豊官が急いで上京された。この選定は明治四年五月二十三日、民部省から花房藩にあり、大嘗祭の清水豊官が急いで上京された。この選定は明治四年五月二十三日、民部省から花房藩にあり、大嘗祭の清水豊官が急いで上京された。この選定は明治四年五月二十三日、民部省から花房藩にあり、大嘗齋田の地位を払い、四月二十二日付けで花房藩に村内の上田八郎が齋田として選定された。この選定は明治四年五月二十三日、民部省から花房藩にあり、大嘗齋田の地位を払い、四月二十二日付けで花房藩に村内の上田八郎が齋田として選定された。この選定は明治四年五月二十三日、民部省から花房藩にあり、大嘗齋田の地位を払い、四月二十二日付けで花房藩に村内の上田八郎が齋田として選定された。

主基齋田の選定は長狭郡のうちの中田・上田を選んで進められた。明治四年七月十八日に主基齋田は北小町村にすることが知らされた。具体的には北小町村字仲ノ坪の六反歩が選ばれた。この土地の持主は浅野長兵衛、松本与左衛門、佐久間庄輔、石井八左衛門、前田小左衛門の五人であった。五人がこれを知ったのは秋ごろのこと、稲は生育して穂が出そうな時期であった。田に既肥などの不浄な肥料を用いることは許されず、初めは緑肥を、後には干鰯を使用した。北のほうには大きな溜池があり、日照りでも干害を受ける心配はなかった。なお、明治以降に齋田が指定された地域を表1に示した。個用田となった六反歩の周囲は、香竹の枝をそのままに二間の間隔を立て、これに注連を張り巡らして厳重な囲いとし、付近の不浄物はどこごとく取り払われた。さらに、北の隅には皮付きのままの丸木の杉で番屋を建てて花房藩の役人が詰め、昼夜開断なく監督・警備した。西方は約八畝ほどを埋め立て、ここに八神殿（天皇を守護する）を建てた。

表1 明治以降の齋田

天皇	齋田	齋田の場所
(大嘗祭の年)	悠紀	(甲斐国) 甲府県巨摩郡上石田村 (現甲府市)
明治天皇 (明治4年)	主基	(安房国) 安房県長狭郡北小町村 (現鴨川市)
大正天皇 (大正4年)	悠紀	(三河国) 愛知県豊田郡六ツ美村 (現豊田市)
昭和天皇 (昭和18年)	主基	(讃岐国) 香川県綾歌郡山田村 (現綾川町)
昭和天皇 (昭和18年)	悠紀	(近江国) 滋賀県野洲郡三上村 (現野洲市)
昭和天皇 (昭和18年)	主基	(筑前国) 福岡県早良郡福山村 (現福岡市)
平成の天皇 (平成2年)	悠紀	(羽後国) 秋田県南秋田郡五城目町
平成の天皇 (平成2年)	主基	(豊後国) 大分県玖珠郡玖珠町
今上天皇 (令和元年)	悠紀	(下野国) 栃木県塩谷郡高根六町
今上天皇 (令和元年)	主基	(丹波国) 京都府南丹市八木町